

鑑真和上の年表

西暦

- 六八八年 揚州に生まれる。
- 六九〇年 3歳 全国（唐）に大雲寺を置く、則天皇帝即位し国号を周とする。
- 七〇一年 14歳 鑑真揚州の大雲寺で出家。
- 七〇二年 15歳 道慈入唐。
- 七〇五年 18歳 鑑真、道岸から菩薩戒を受ける。唐中宗復位し、唐を再興、全国に中興寺、中興観を置く。
- 七〇七年 20歳 中興寺・中興観を龍興寺・龍興観と改称。鑑真 20歳～26歳迄洛陽で遊学律学の研究うに没頭。
- 七〇八年 21歳 實際寺で弘景から具足戒を受ける。
- 七一二年 25歳 玄奘即位
- 七一三年 26歳 鑑真始めて講座に上がり津疏を講じる。
- 七一七年 30歳 行基集団活動が弾圧される。
- 七一八年 31歳 道慈帰国。
- 七二九年 42歳 長屋王の変。
- 七二三年 日本政府は14年ぶりに遣唐使を派遣し、日本が唐より正式な僧、三師七証による正式な僧を招聘するため。
- 七三三年 46歳 8月17日の事。栄叡・普照・玄朗、戒融（かいゆう）遣唐使として決定。
- 七三四年 47歳 遣唐使は難波津を出航し、九州太宰府に寄港し、五島列島を最後に、揚州を目指しました。
734年11月、長期留学生を残して、四隻そろって、蘇州より帰国の途についた。
- 七三六年 49歳 中国出身の道璿とインド出身の菩提仙那、ベトナム出身の仏哲らは、遣唐使に従って日本に来歳日。
- 七三八年 51歳 （唐）全国に開元寺・開元観を置く。
- 七四一年 54歳 国分寺・国分尼寺の建立が命じられる。
- 七四二年 55歳 揚州大明寺で講座中に栄叡・普照の訪問を受け、渡日を決意。
- 七四三年 56歳 密告によりその年の夏、第1次渡航計画失敗。11月第二次計画するが出航後まもなく失敗。
- 七四四年 57歳 第3次計画、栄叡捕らえられる。第4次は天台山巡礼を口実とするが靈祐が密告したため失敗。
道慈没（70歳）
- 七四九年 62歳 5次計画10月出航11月海南島漂着、広州に向かう途中栄叡没。行基没（82歳）。
- 七五〇年 63歳 海南島から揚州に帰路途中祥彦も没、鑑真失明する。
日本政府は十年ぶりに遣唐使を派遣する事になり、藤原清河大使・大伴古麻呂（おおとものこまろ）副使・吉備真備（きびのまきび）副使・藤原刷雄（さつお）・藤原仲麻呂・大伴古慈悲（こじひ）らが同行した。
- 七五二年 65歳 藤原清河を大使として、大伴古麻呂・吉備真備を副使とする遣唐使がその年の秋には来唐、4月。東大寺大仏開眼。
- 七五三年 66歳 11月16日蘇州出航21日沖繩12月18日屋久島、12月20日正午秋目に到着12月26日太宰府に到着
- 七五四年 67歳 1月12日北九州を発ち、船で瀬戸内海を通り、2月1日に難波津に着き3日河内に入る。
2月入京、3月授戒一任の勅を受ける、4月聖武夫妻、考謙天皇に授戒。
- 七五五年 68歳 10月、東大寺に戒壇院完成。（唐）安祿山の反乱起きる。
- 七五六年 69歳 5月24日大僧都に任じられる。5月2日聖武太上天皇没（56歳）5月24日法進律師に任じられる。
- 七五七年 70歳 7月橘奈良麻呂の変、大伴古麻呂獄死。塩焼王（のち氷上塩焼）も連座したが免罪。11月備前

国の田 100 町が東大寺唐禅院に施入される。

七五八年 71 歳 8 月大僧都の職を解かれ、大和上の尊号を与えられる。

七五九年 72 歳 唐招提寺を創建。

七六〇年 73 歳 光明皇太后没 (60 歳)・道璿没 (59 歳)

七六一年 74 歳 法進『沙弥十戒並びに滅儀経疏』を著わす。下野薬師寺と大宰府観世音寺に戒壇設立。

七六三年 76 歳 春、弟子の忍基ら肖像を作る。鑑真 5 月 6 日没 (76 歳)

七六四年 恵美押勝 (藤原仲麻呂) の乱。恵美押勝 (59 歳) 氷上塩焼 (50 歳) 誅殺される。

七六五年 西大寺創建。

七七五年 吉備真備没 (81 歳)

七七七年 遣唐使唐に鑑真の死を伝える。

七七八年 法進没 (70 歳)

七七九年 淡海三船『唐大和上東征伝』を著わす。

七八五年 最澄・東大寺戒壇院で受戒・淡海三船没 (64 歳)

八〇四年 最澄・空海入唐。

八〇五年 最澄帰国。

八一五年 如宝没 (90 歳)

八二二年 最澄没 (54 歳)

一三二三年 唐招提寺金堂の西側の鴟尾が補作される。

一八〇二年 雷火で唐招提寺五重塔焼失。

一九二二年 常盤大定ら揚州大明寺の故地を確定、顕彰碑を建立。

一九五七年 井上靖『天平の薨』刊行。

一九六三年 揚州の大明寺に鑑真記念館完成。

一九六四年 鑑真 1200 年忌・御影堂が移築完成。

一九七七年 パリで鑑真像を公開。

一九七八年 唐招提寺戒壇院に宝塔が建てられる。

一九八〇年 鑑真像の中国里帰り展。

一九九八年 唐招提寺金堂保存修理・専門事業委員発足。

二〇〇〇年 唐招提寺金堂解体修理始まる。

二〇〇九年 11 月唐招提寺金堂落慶法要。

二〇一〇年 唐招提寺の鑑真和上の座像は 11 月日本より上海へて揚州の大明寺に帰国。